

JOSKAS-JOSSM 2022

ランチョンセミナー2 【LS2】

Smith+Nephew

Medical Education



2022年6月16日(木) 12:00- 13:00

会場： 第2会場

札幌コンベンションセンター「1階 大ホールC」

座長：広島大学大学院 医系科学研究科 整形外科学 教授

安達 伸生 先生

## ＋ 半月逸脱を制動するバイオメカニクスと手術手技

演者：札幌円山整形外科病院 スポーツ医学センター長・副院長

鈴木 智之 先生

## ＋ 半月板縫合術のUpdate -All-Insideデバイスを用いた縫合術の実際とその限界について-

演者：千葉メディカルセンター 整形外科 主任医長・  
スポーツ医学センター 副センター長

齊藤 雅彦 先生

- 本セミナーは現地開催となります。※当日会場からのライブ配信はありません。後日学会HPからオンデマンド配信を予定しております。詳細は学会HPをご確認下さい。
- 本セミナーはコロナウィルス感染対策の為、会場の収容人数に制限が出る可能性がございますので余裕を持ってご来場ください。
- 本セミナーは、日本整形外科学会教育研修単位として下記の内1単位が取得できます。
  - ・ 認定単位 : 日整会専門単位 (N) または スポーツ単位 (S) 1単位
  - ・ 必須分野 : [2] 外傷性疾患 (スポーツ障害を含む)  
[12] 膝・足関節・足疾患
  - ・ その他単位 : (S) スポーツ単位

共催：JOSKAS-JOSSM 2022 / スミス・アンド・ネフュー株式会社

## ＋ 半月逸脱を制動するバイオメカニクスと手術手技



札幌円山整形外科病院  
スポーツ医学センター長・副院長

鈴木 智之 先生

半月逸脱 (meniscus extrusion: ME) は半月のhoop stressの破綻を意味し、主にroot tear (内側では後根) によって引き起こされるが、中後節の変性断裂を原因とするものも多く経験する。表題に関する我々の研究から以下の項目を説明する。・半月の機能解剖：半月のtensile modulusのregional variationとhoop stress。・半月逸脱のメカニズム：ロボット生体力学試験機を用いた研究。・半月逸脱量の臨床応用：OA症状、進行、予後、治療評価。・内側半月逸脱と骨切り術の適応と手術手技：内側半月逸脱に対する手術手技の超音波を用いた制動評価。・外側半月逸脱に対する手術手技のコツとピットフォール。半月逸脱を制御するためには早期治療・予防が重要である。半月縫合の全年齢層の縫合率の底上げを考える際に、逸脱を制御する手術手技と適正な手術適応、術式選択が必須であり、save meniscusに関する基礎、臨床研究を前進させていく必要がある。

## ＋ 半月板縫合術のUpdate -All-Insideデバイスを用いた縫合術の実際とその限界について-



千葉メディカルセンター 整形外科 主任医長・  
スポーツ医学センター 副センター長

齊藤 雅彦 先生

近年、半月板機能の温存の重要性が広く認識されてきており、半月板損傷に対して半月板縫合術の適応が拡大してきている。従来は部分切除術が行われていた症例でも、縫合法やデバイスの改良により、良好な成績が報告されている。半月板縫合法にはInside-out法、Outside-in法及びAll-inside法があり、実際には損傷部位、形態により、これらの方法を単独もしくは併用して縫合する。最近では、All-inside法のデバイスが多く開発、改良されており、より短時間で強固な縫合が可能となっている。しかしながら、それぞれのデバイスには特性があり、それらを十分理解した上で使用することが重要である。また、縫合法の工夫に加え、治癒率を高めると報告されているfibrin clotなどのBiological augmentationの併用も考慮すべきである。本講演では、半月板損傷に対する治療戦略の最新の知見とともに、当院でのAll-inside法を中心とした半月板縫合術の実際を紹介する。